

2021年度 浜松医科大学 医学科 数学

1

(1) a, b, c が実数であることに注意すると,

$$\begin{aligned} a^2 + b^2 + c^2 - ab - bc - ca &= \frac{1}{2}(2a^2 + 2b^2 + 2c^2 - 2ab - 2bc - 2ca) \\ &= \frac{1}{2}\{(a-b)^2 + (b-c)^2 + (c-a)^2\} \\ &\geq 0 \end{aligned}$$

であり, この等号が成り立つときの条件は,

$$a-b=b-c=c-a=0 \quad \therefore a=b=c$$

である.

(2) 正の実数 x, y, z に対して, $\sqrt[3]{x}, \sqrt[3]{y}, \sqrt[3]{z}$ もまた正であるから,

$$\sqrt[3]{x} + \sqrt[3]{y} + \sqrt[3]{z} > 0 \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

である.

ここで, 与えられた等式

$$a^3 + b^3 + c^3 - 3abc = (a+b+c)(a^2 + b^2 + c^2 - ab - bc - ca) \quad \cdots \cdots \textcircled{2}$$

で, $(a, b, c) = (\sqrt[3]{x}, \sqrt[3]{y}, \sqrt[3]{z})$ とおき, (1)の結果と①を用いると,

$$(\sqrt[3]{x})^3 + (\sqrt[3]{y})^3 + (\sqrt[3]{z})^3 - 3 \cdot \sqrt[3]{x} \cdot \sqrt[3]{y} \cdot \sqrt[3]{z} \geq 0$$

$$\therefore x + y + z - 3 \cdot \sqrt[3]{xyz} \geq 0 \quad \therefore \frac{x+y+z}{3} \geq \sqrt[3]{xyz} \quad \cdots \cdots \textcircled{3} \quad \therefore P \geq Q$$

となり, この等号が成り立つときの条件は,

$$\sqrt[3]{x} = \sqrt[3]{y} = \sqrt[3]{z} \quad \therefore x = y = z$$

である.

また, ③で, x, y, z をそれぞれ $\frac{1}{x}, \frac{1}{y}, \frac{1}{z}$ で置き換えれば,

$$\frac{1}{3} \left(\frac{1}{x} + \frac{1}{y} + \frac{1}{z} \right) \geq \sqrt[3]{\frac{1}{x} \cdot \frac{1}{y} \cdot \frac{1}{z}} \quad \therefore \frac{1}{3} \left(\frac{1}{x} + \frac{1}{y} + \frac{1}{z} \right) \geq \frac{1}{\sqrt[3]{xyz}} \quad \therefore \frac{1}{R} \geq \frac{1}{Q}$$

となり, $Q > 0, R > 0$ であることより,

$$Q \geq R$$

である. さらに, この等号が成り立つときの条件は,

$$\frac{1}{x} = \frac{1}{y} = \frac{1}{z} \quad \therefore x = y = z$$

である.

以上より,

$$P \geq Q \geq R$$

が成り立ち, 各等号が成り立つときの条件は, いずれも $x=y=z$ である.

2

- (1) (a)
- $BC = x$
- とおくと,
- $BD : DC = 2 : 1$
- より,

$$BD = \frac{2}{3}x$$

である. このとき, 三角形 ABD に余弦定理を適用すると,

$$\cos B = \frac{4^2 + \left(\frac{2}{3}x\right)^2 - 1^2}{2 \cdot 4 \cdot \frac{2}{3}x}$$

を得る. 一方, 三角形 ABC に余弦定理を適用すると,

$$\cos B = \frac{4^2 + x^2 - 3^2}{2 \cdot 4 \cdot x}$$

を得るから, これらを等置して,

$$\frac{4^2 + \left(\frac{2}{3}x\right)^2 - 1^2}{2 \cdot 4 \cdot \frac{2}{3}x} = \frac{4^2 + x^2 - 3^2}{2 \cdot 4 \cdot x}$$

より,

$$15 + \frac{4}{9}x^2 = \frac{2}{3}(7 + x^2) \quad \therefore \frac{2}{9}x^2 = \frac{31}{3}$$

となる. したがって,

$$BC = x = \frac{\sqrt{186}}{2}$$

である.

- (b) 点
- D
- が辺
- BC
- を
- $2 : 1$
- に内分するから,
- $\overrightarrow{AD} = \frac{\overrightarrow{AB} + 2\overrightarrow{AC}}{3}$
- である. この等式の両

辺の大きさの 2 乗を考えると,

$$|\overrightarrow{AD}|^2 = \frac{1}{9} \left\{ |\overrightarrow{AB}|^2 + 4\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} + 4|\overrightarrow{AC}|^2 \right\}$$

より,

$$1 = \frac{1}{9} (16 + 4\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} + 36) \quad \therefore \overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} = -\frac{43}{4}$$

である. このことを用いると,

$$|\overrightarrow{BC}|^2 = |\overrightarrow{AC} - \overrightarrow{AB}|^2 = |\overrightarrow{AC}|^2 - 2\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} + |\overrightarrow{AB}|^2 = 9 - 2 \cdot \left(-\frac{43}{4}\right) + 16 = \frac{93}{2}$$

$$\therefore BC = \frac{\sqrt{186}}{2}$$

である.

- (2) (a) 焦点が $(0, 0)$, 準線が $y = -2$ の放物線の頂点は $(0, -1)$ であるから, この放物線の方程式は, $x^2 = 4(y + 1)$ ……① である. したがって, 直線 $y = 2$ との交点 P の x 座標は ① に $y = 2$ を代入して,

$$x^2 = 12$$

を満たす. つまり, 求める点 P の座標は,

$$P(\pm 2\sqrt{3}, 2)$$

である.

- (b) $P(x, 2)$ とおき, P から準線 $y = -2$ に下ろした垂線を PH とすると,

$$PH = 4$$

である. 点 P が題意の放物線上にあるための条件は $OP = PH$ が成り立つことであるから, x は,

$$OP^2 = 4^2 \quad \therefore x^2 + 2^2 = 16$$

より,

$$x^2 = 12$$

を満たす. つまり, 求める点 P の座標は,

$$P(\pm 2\sqrt{3}, 2)$$

である.

- (1) $n-1$ 段目までの登り方の総数は a_{n-1} 通りあり、このあと 1 段だけ登って n 段目を踏む登り方が b_n であるから、

$$b_n = a_{n-1} \cdot 1 = a_{n-1}$$

$n-2$ 段目までの登り方の総数は a_{n-2} 通りあり、このあと 1 段飛ばして登って n 段目を踏む登り方が c_n であるから、

$$c_n = a_{n-2} \cdot 1 = a_{n-2}$$

- (2) n 段目までの登り方のうち $n-1$ 段目を踏む登り方と $n-1$ 段目を踏まない登り方に重複はない。よって、 $n \geq 3$ のとき、

$$a_n = b_n + c_n = a_{n-1} + a_{n-2} \quad \dots\dots ①$$

が成り立つ。

すべての自然数 n に対して $a_n > 0$ であるから、①の両辺を a_{n-1} で割ると

$$\frac{a_n}{a_{n-1}} = 1 + \frac{a_{n-2}}{a_{n-1}}$$

となり、さらに $x_n = \frac{a_{n+1}}{a_n}$ とおくと、 $x_{n-1} = 1 + \frac{1}{x_{n-2}}$ より、

$$x_{n-1}x_{n-2} = x_{n-2} + 1 \quad \dots\dots ②$$

が成り立つ。

$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_{n+1}}{a_n} = \lim_{n \rightarrow \infty} x_n$ の存在を仮定して、この値を α とおく。すべての自然数 n に対して $x_n > 0$ であるから $\alpha \geq 0$ であり、②の両辺で $n \rightarrow \infty$ とすることにより、

$$\alpha^2 = \alpha + 1$$

となる。 $\alpha \geq 0$ のもとでこれを解くと、

$$\alpha = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_{n+1}}{a_n} = \frac{1 + \sqrt{5}}{2}$$

- (3) $a_{2n} = a_n^2 + a_{n-1}^2 \quad \dots\dots (\star)$

2 以上のすべての整数 n に対して (\star) が成立することを数学的帰納法によって以下に示す。

- (I) $a_1 = 1, a_2 = 2, a_3 = 3$ であり、これらと①より、 $a_4 = 5, a_5 = 8, a_6 = 13$ であるから、

$$a_2^2 + a_1^2 = 4 + 1 = 5 = a_4,$$

$$a_3^2 + a_2^2 = 9 + 4 = 13 = a_6$$

となり、 $n = 2, n = 3$ において (\star) は正しい。

(II) $n = k, n = k + 1 (k \geq 2)$ のとき (☆) が正しい, すなわち

$$a_{2k} = a_k^2 + a_{k-1}^2, \quad a_{2(k+1)} = a_{k+1}^2 + a_k^2 \quad \dots\dots \textcircled{3}$$

が成り立つものと仮定する. このとき,

$$\begin{aligned} a_{2(k+2)} &= a_{2k+3} + a_{2k+2} && \textcircled{1} \text{より} \\ &= (a_{2k+2} + a_{2k+1}) + a_{2k+2} && \textcircled{1} \text{より} \\ &= 2a_{2k+2} + a_{2k+1} \\ &= 2a_{2k+2} + (a_{2k+2} - a_{2k}) && \textcircled{1} \text{より} \\ &= 3a_{2k+2} - a_{2k} \\ &= 3(a_{k+1}^2 + a_k^2) - (a_k^2 + a_{k-1}^2) && \textcircled{3} \text{より} \\ &= 3a_{k+1}^2 + 2a_k^2 - a_{k-1}^2 \\ &= 3a_{k+1}^2 + 2a_k^2 - (a_{k+1} - a_k)^2 && \textcircled{1} \text{より} \\ &= 2a_{k+1}^2 + 2a_{k+1}a_k + a_k^2 \\ &= (a_{k+1}^2 + 2a_{k+1}a_k + a_k^2) + a_{k+1}^2 \\ &= (a_{k+1} + a_k)^2 + a_{k+1}^2 \\ &= a_{k+2}^2 + a_{k+1}^2 && \textcircled{1} \text{より} \end{aligned}$$

より, $n = k + 2$ においても (☆) は正しい.

以上 (I),(II) より, 2 以上のすべての整数 n に対して (☆) は正しい.

(1) $x > 1$ のとき,

$$f(x) = \sqrt[n]{x^{n-k}(x-1)^k} = \sqrt[n]{x^n \left(\frac{x-1}{x}\right)^k} = x \left(1 - \frac{1}{x}\right)^{\frac{k}{n}}$$

である.

$x \rightarrow \infty$ のとき, $f(x) - ax$ が収束するならば, $\lim_{x \rightarrow \infty} \{f(x) - ax\} = b$ (b は定数) とおけるから,

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{f(x) - ax}{x} = 0 \quad \therefore \lim_{x \rightarrow \infty} \left\{ \left(1 - \frac{1}{x}\right)^{\frac{k}{n}} - a \right\} = 0$$

$$\therefore 1 - a = 0 \quad \therefore a = 1$$

である. すなわち, $x \rightarrow \infty$ のとき, $f(x) - ax$ が収束するためには, $a = 1$ が必要である.

$a = 1$ のとき, $x > 1$ において,

$$f(x) - ax = f(x) - x = x \left\{ \left(1 - \frac{1}{x}\right)^{\frac{k}{n}} - 1 \right\}$$

であるから, $t = 1 - \frac{1}{x}$ とおくと, $0 < t < 1$, $x \rightarrow \infty$ のとき $t \rightarrow 1 - 0$ であり, $x = -\frac{1}{t-1}$ である.

よって, $g(x) = x^{\frac{k}{n}}$ ($x > 0$) とおくと, $g'(x) = \frac{k}{n} x^{\frac{k}{n}-1}$ であることより,

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \{f(x) - ax\} = \lim_{t \rightarrow 1-0} \left(-\frac{t^{\frac{k}{n}} - 1}{t-1} \right) = \lim_{t \rightarrow 1-0} \left\{ -\frac{g(t) - g(1)}{t-1} \right\} = -g'(1) = -\frac{k}{n}$$

となるから, $x \rightarrow \infty$ のとき, $f(x) - ax$ が収束するような定数 a の値と, そのときの極限值は

$$a = 1, \text{ 極限值 } -\frac{k}{n}$$

である.

$$(2) \quad \{f(x)\}^n = x^{n-k}(x-1)^k$$

であり, この両辺を x で微分すると,

$$\begin{aligned} n\{f(x)\}^{n-1} f'(x) &= (n-k)x^{n-k-1} \cdot (x-1)^k + x^{n-k} \cdot k(x-1)^{k-1} \\ &= x^{n-k-1}(x-1)^{k-1} \{(n-k)(x-1) + kx\} \\ &= x^{n-k-1}(x-1)^{k-1} (nx - n + k) \end{aligned}$$

となるから, $x \neq 0, 1$ のとき,

$$\begin{aligned} f'(x) &= \frac{x^{n-k-1}(x-1)^{k-1}(nx - n + k)}{n\{f(x)\}^{n-1}} \\ &= \frac{x^{n-k-1}(x-1)^{k-1}}{\left\{ \sqrt[n]{x^{n-k}(x-1)^k} \right\}^{n-1}} \left(x - \frac{n-k}{n} \right) \\ &= \sqrt[n]{x^{n(n-k-1)-(n-1)(n-k)}(x-1)^{n(k-1)-(n-1)k}} \left(x - \frac{n-k}{n} \right) \\ &= \sqrt[n]{x^{-k}(x-1)^{-(n-k)}} \left(x - \frac{n-k}{n} \right) \end{aligned}$$

となる.

よって, $f(x)$ が原点で極値をもつための条件は, $f'(x)$ が $x = 0$ の前後で符号変化する

ことであり、 n が奇数であること……① と、 $0 < k < n$ ……② より $0 < \frac{n-k}{n} < 1$ であることに注意すると、 x^{-k} に注目することにより、その条件は、

k が奇数であること ……③

である。

このとき、 $f(x)$ の増減は右表のようになるから、①、②、③、および、 $n-k$ が偶数であることより、

x	…	0	…	$\frac{n-k}{n}$	…	1	…
$f'(x)$	+	/	-	0	+	/	+
$f(x)$	↗	0	↘	$-\frac{\sqrt[n]{(n-k)^{n-k} k^k}}{n}$	↗	0	↗

$$\lim_{x \rightarrow -0} f'(x) = \infty$$

$$\lim_{x \rightarrow +0} f'(x) = -\infty$$

$$\lim_{x \rightarrow 1} f'(x) = \infty$$

であること、(1)より、 $y = f(x)$ は $x \rightarrow \infty$ において

$y = x - \frac{k}{n}$ を漸近線にもち、同様に、 $x \rightarrow -\infty$ において

も $y = x - \frac{k}{n}$ を漸近線にもつことも考慮すると、

$y = f(x)$ のグラフの概形は右図のようになる。

